



※写真掲載については本人の同意を得ています。

娘が「学校に行きたくない」と言い始めたのは小学4年生の5月頃。その時は「一日くらい、いいんじゃない？」という気持ちでした。最初は行ったり行かなかったりという日々で、夏休みが明け、その後ほとんど学校に行かなくなった時には「さすがにヤバいな…」と思い始めました。自分の仕事のこと、子どもが行きたくないと思った原因を親として見つけたいといけないのでは？という気持ち、勉強についていけなくなることで今後本人の精神的な負担が増えてしまうのではないかという焦り、さまざまな考えが頭を巡りました。

毎日「今日は学校どうする？」と確認する時、私は本当は行ってほしくて

家族への
インタビュー

『毎日でも行きたい』
そう思える居場所ができました

仕方がないのですが、なるべく本人の気持ちや大事にしてあげたい気持ちもあり、その葛藤がともしんどかったですね。

学年が変わる頃、学校の先生から教育支援センターができることを教えてもらい、見学に行きました。何を言われても動かなかった子が、今では私が起こさなくてもちゃんと一人で起きて、お弁当の準備をして「お母さん、10時だよ！」と言ってくれるようになり、家に帰ってからも「今日は体育が楽しかった！」など話をしてくれる機会が増えました。

ここに来るようになってから本人の後ろめたさも薄れてきたようで、だんだん以前のはつらつとした自分らしさを取り戻してくれている気がします。

今でも勉強は嫌がるようですが、本人の気持ちや落ち着いて、周りとの会話で危機感をもったり何かに興味が湧いたりしたら、いつか勉強を始めるんだと思います。それまではたくさんの人と関わることで、いろんなことをインプットしていけたらいいと見守っていられるようになりました。



自分らしく過ごせる場所 み～つけ！

国の調査によると令和4年度の府内公立小中学校の不登校児童生徒数が過去最多となりました。

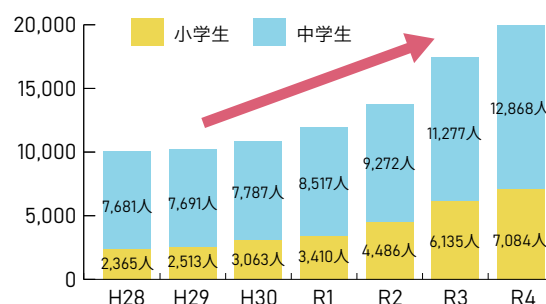
時代の変化とともに子どもたちを取り巻く状況も多様化かつ複雑化しており、熊取町でもさまざまな理由で学校に『行かない・行けない』子どもたちが年々増えています。

一般的には、友人関係をめぐる問題・家庭の状況・学校との関わり方の問題・生活リズムの乱れ・

不安感などが原因としてあげられていますが、実際には子どもたちが学校に『行かなくなった・行けなくなった』要因は1つではありません。子どもたちは言葉にしなくても、心の中ではたくさん悩み、苦しみ、葛藤しています。

今年5月にオープンした『熊取町教育支援センター』では、子どもたちの楽しそうな笑い声が聞こえてきます。一体どんな場所なのか、皆さんも少しのぞいてみませんか？

府内の不登校児童生徒数の推移



出典：文部科学省『令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』より

児童生徒自身が最初に学校へ行きづらいつ感じ始めたきっかけ



出典：文部科学省『令和2年度 不登校に関する実態調査』より

教育支援センターは、今のあなたを受け入れ、1人1人の 素敵なところを見つけて伸ばしていく場所

相談や入所に費用はかかりません。開所している間は、いつ来ていつ帰ってもかまいません。家族の付き添いもOKです。教育支援センターは、子どもたちだけでなく、家族にとっても安心できる居場所になることを目指しています。

教育支援センターのコンセプト

自分を見つける 自立支援

3'K(みつけ)

きづく + きめる + かかわる

活動プログラム

教育支援センターでの体験を通して自分の気持ちや好きなものに『気付く』、これからどうしたいか『決める』、たくさんの人と『関わる』を大切に支援していきます。

熊取町教育支援センター

場所 五門東2丁目3-5
(教育・子どもセンター2階)
電話 453・0601
開所日 火・木曜日
午前10時～午後3時30分





相談したい場所 み～っけ！

教育支援センターはまだ始まったばかり。スタッフも子どもたちとの関わりを通してさまざまなことを学び、成長している段階です。同時に、ここに通う子どもたちの目の前にも無限の未来が広がっています。『不登校』は家族だけで抱える問題ではありません。家族の方も悩んだ時には一度相談してみませんか？

申込の流れ

STEP 1



まずは、学校・教育
支援センターへ相談
熊取町教育支援センター
☎453・0601

STEP 2



面談・見学
スタッフが初回の面談をします

STEP 3



申し込み
申込書を熊取町教育支援
センターに提出します



スタッフインタビュー

顔を見せにきてくれるだけで



子どもたちのためにできることを

指導主事 南 先生

私は、理科の教師をしていたので、それを活かして子どもたちと机に向かう以外の勉強ができればと考えています。今は、ベランダでメダカと一緒に育てたり、小さな花壇で花や野菜を育てたりして自然と触れ合うような体験をしてもらっています。この夏は一緒に土を耕すところからスタートしましたが、重労働にもかかわらず、子どもたちも楽しそうに手伝ってくれました。

教育支援センターで自然や人に触れ、学ぶ楽しさを知って、少しずついろんなことに興味をもち、やりたいこと・好きなことを見つけてもらえたらいいなと思っています。



安心して気持ちよく 過ごせる場所に

主任指導員 釈迦戸 先生

ここに来てくれる子どもたちは絵を描いたり、卓球やバランスボールで体を動かしたり、ゲームや勉強をしたりと、いつものびのび過ごしています。

学校に行けず、家にずっといることのしんどさなどさまざまな思いが、お子さんだけでなく、家族の方にもあると思います。そんな時に少しでも息抜きができる場所としてここを利用していただければ嬉しいです。申し込んだら、必ずずっと来ないといけないというきまりはありません。お子さんのペースでいいんです。まずは相談だけでもかまいません。お家の中だけで抱え込まず、いつでも連絡くださいね。



気軽に相談してね！

自分らしく、まっすぐに

皆さんはどのような子ども時代を過ごしましたか？些細なことで喜び・怒り・悲しみ・笑い、毎日が冒険だったことでしょうか。今の子どもたちもそんなあなたと変わらないはずです。学校に『行かない・行けない』子どもたちも同じように悩んだり、苦しんだりして『不登校』という選択をしました。

周りと同じペースで歩くことに疲れた子どもたちに対して、私たち大人は何ができるのでしょうか。

それは誰かを責めることでも批判することでもなく、その子の考え方・感じ方・大切にしていることを認めること。その子だけの素敵な部分を見つけ、これからを幸せに生きていくことを願うことなのだと思います。



支え合う心の芽生え

指導員 南 先生

学校に行けなくなることは誰にでも起こり得ることです。ここにいる子たちは学年も性格もそれぞれ違いますが、それが子どもたちにとってよい影響となっています。私たちがどれだけ優しく『それはダメだよ』と伝えても『注意された』と敏感に受け止めてしまう、でも年上の子に言われると素直に受け止められることもあります。また、年下の子がいることで『しっかりしよう』と背筋を伸ばすことができる。教育支援センターは、そうやって誰かが誰かを支えられる場所です。私自身も子どもたちからたくさんの『気付き』をもらっています。



一番身近な存在でありたい

学生ボランティア 三原 さん

実際に子どもたちと関わってみると、年齢が近いのもありみんな気さくに話しかけてくれます。私もそんな子どもたちの笑顔を見るのがとても嬉しく、関わり方の難しさを感じる時もありますが、やりがいも感じています。だからこそ、悩みを抱えている子どもたちの力になりたいという気持ちで教師を目指しています。そんな時に、この教育支援センターを紹介してもらい、今は学生ボランティアとして子どもたちと関わっています。実は私も少し学校に行きづらいつと感じたことがあります。この経験から、これからも一番身近なお姉さんとして気持ちに寄り添いたいと思っています。

